

生坂村営バス運営協議会要旨

1. 日時及び場所 平成31年2月19日(火)午後3時00分
生坂村役場 第3会議室

2. 出席者(10名)

村営バス運営協議会委員 一ノ瀬貞男(村議会議員)、瀧澤龍一(村議会議員)、高野茂吉(区長
会長)、降幡亨(区長会副会長)、丸山政宏(区長会副会長)、
野澤忠一(古坂区長)、市川廣美(教育長)
役 場 藤澤泰彦(村長)、牛越宏通(総務課長)、中山茂也(総務係長)

3. 協議事項

○平成30年度村営バス利用状況について

○利用者アンケート調査結果について

Q. アンケート結果がいろいろ出ているが今後改善したいと思っている点は。犀川線の利用者減少は周回バスの影響があるのか。

A. 特に学生が減っている。31年度を予想すると高校生が8人減る。前年より2割くらい減少中学生も4人減り前年比88%程になる。影響は来年度も続くと思込む。

対策については、路線バスのアンケートでも時間が合わない、本数を増やしてほしいとの声は多いものの変えるのは容易ではなく、全面的な見直しが必要となる。時間をかけて調査し必要な便数や時間を精査しなければならない。現状のダイヤについても3年間の試行運行を受けてから本格運行を始めた。大々的なアンケートを行った結果を反映しているので、今後これをどう生かすかが課題になる。

周回バスについては、自宅近くに来てもらえるのありがたいという声が多い。大きい荷物を運んで自宅近くで降せるなどの利点を更にPRしたい。接続についても周知したい。中学3年生については、通学用バスとして利用してもらうために宣伝を行っている。26便とは別にデマンドバスの話もできればと思う。

26便については、予約の受付終了時間が早いとの意見が多い。その日の正午までにやまなみ荘に入った予約をバス運転手に報告するという形をとっている。運転手の都合などもある。しかし子供が授業中に携帯電話を学校に預けていたり、部活の時間が決まるのが遅かったりなどの事情がありなかなか時間通りの予約が難しいとの話も聞く。現在のバス運転手が多少融通をきかせてくれているところもあり利用者が増えている可能性がある。また、周回バスの存在を知らない人がいるのではという意見があったので、更なる宣伝をしていきたい。

高校生専用バスに大人が乗っても良いという意見が大多数だったので、このあたりについても皆さんのご意見をいただきたい。

Q. 大人が乗っても良ければ一般人も乗れる定時化してもよいのでは。

A. 26便デマンド便については、夜自宅近くまでいくメリットがある。定時化については一つの方法だが、一般の方を乗せることについて当面は弊害がないか26便で試行するのも方法と考える。皆さんのご意見をお聞きしたい。

Q. 26便を利用する高校生の多くが、高校生専用でなくなっても利用すると答えている。定期便にすれば、明科駅からの接続を考えても一般人が結構利用するのではないか。小さなバスなのでやはり酔った利用者が気がかりとなる。半年ほど試験的に運行しては。飲酒した方はお断りという条件をつけてはどうか。もしくは助手席指定。運転手に権限を与えて、態度の悪い乗客は拒否するなど。

A. 大きめのバスもあるので人数次第でバスを変更してもよいと思われる。6月に公共交通協議会があるので、そこで更に意見を聞いて7～8月頃に開始できればどうか。半年くらい試行した後に検証してその後の方針を決定したい。

Q. 昨年、いくさかの郷ができたがその前にあるバス停の利用状況は。

A. 1月の1カ月で乗った人29人、降りた人24人。バスを使いたいくさかの郷利用者は少ないと思われる。

○平成30年度村営バス特別会計予算及び平成31年度予算案について

Q. 国庫支出金は減っているのか。

A. 毎年いただいていた運行費分の限度額は去年と変わっていない。人口によって変わるので、人口が減れば減る。

○村営バスのダイヤについて

Q. 以前、水曜日に待ち時間が空いてしまうという中学校の話があった。14時台に乗れるか。

A. 時間に余裕のある便はある。北回りの4便については学校側に確認したい。JRや路線バスとの接続の問題もあるが、調整が付けば若干遅らせる可能性もある。

Q. 16日にJRがダイヤ改正するのに合わせてバスもダイヤ改正するのか。

A. 早めにチラシやHPで情報を周知したい。

○その他

質問・意見なし